
適当な歴史小説（超短編）

new season

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

適当な歴史小説（超短編）

【コード】

N7913P

【作者名】

new season

【あらすじ】

ごく普通の美少女イルが繰り広げる短い短い物語

歴史は夜作られる

時は弥生時代。この頃はヒトは村を作り、そして国を作っていた。物語の主人公イルもある国の中の住人である。毎年、イネを作っては高床倉庫に保存していく日々が続いていた。

まだ14歳程であるイルの仕事は春は苗の植え付け、夏は土手でいたずらをする子どもがいなか見張り、秋は害虫駆除と石包丁での収穫である。

この国はまだ身分制度ができはじめたばかりで、住民の間では平等社会が当たり前だったためにイルは特別裕福でもなく、また貧乏ではなく育てられてきた。

毎年収穫祭というものがあり、全てのイネを収穫し終えて日が七回昇った日に行われる。人々は青銅器で作られた銅鐸で飾り付けを行い、酒に魚、そして肉を食べてひと晩を開かす。

イルはそんな日がとても憂鬱だった。酒臭い父親やその友人が器片手に寄ってくるのである。それだけではない。イルは周りの女性に比べれば一段と美人である。

自分に自信がある若者からさうとう偉い権力を持っている中年まで酒の酔いに身を任せ交際を申し込んでくるのである。（交際というよりは求婚であろうか）

そして今年。イルはそんな男どもに相手をするのが嫌になってしまった。住民が盛り上がっている最中、イルはこっそりと抜け出して森の中に隠れるように逃げ込んだ。

森といってもただの雑木林ではあるが、中心にとても大きい杉の木がある。住民はこの木を「元気の源」と呼んでいる。そんな長い名前を付けるのも煩わしいので若者は「元」と「源」をかけて「ゲンゲン」とよんでいる。

長いようで短い物語はここから始まる。

「ここまでくれば安心か」

もう酒臭い男と相手するのはもう勘弁。それよりここの湿った土と木の匂いの方がよっぽどまし。きつと誰も来ない。

ガヤガヤする声も雑木林に吸い込まれていって、本当に静かな夜。静か過ぎて寂しいくらいだ。でも私はこっちの方が落ち着く……今日の親父、何か変だった。

私の周りに来る男達を追っ払ってこの娘は俺のもんだとか言ってた。私を守る親父は頼もしかったけど私は私のものだけ、心も体も。とてもじゃないけど他人には渡したくないの。

まだ私は恋というものをしたことがない……友達や親友は男の人についてキヤーキヤー話し合っていたがどうもついていく気にはなれない。男って一体何だろう。想像もつかない。

その時、彼女の視線の奥の茂みで何か音がした。みっともない。人がいるなら堂々と私の前に現れればいいのに。そいつが男だったらなおさらだ。ぐずぐずしても仕方がないので私は後先のことを考えずに茂みの中まで足を入れた。

ガサガサ。ゴトツ。

「うわっ……え……？」

その中にはしゃがんでいる少年がいた。貧相で骨が浮いている。しかも上半身裸。そろそろ肌寒くなってくのになぜ？露出狂なのか？私はしばらく冷たい視線を送ってしまった。

歴史は夜作られる（後書き）

「ライブアライブ」というゲームが好きなので（まだクリアしていませんが……）

それに似た、それぞれの時代の（時には未来、宇宙を越えて）書いていきたいとします。今回は弥生時代。全ての時代を書いていくわけではありませんが定期的に1000字〜2000字を目安に書いていきたいとします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7913p/>

適当な歴史小説（超短編）

2011年1月4日03時14分発行